

「超上流工程における要求分析への科学的アプローチ」研究会

設置申請書

2014年3月7日

1. 研究会名

「超上流工程における要求分析への科学的アプローチ」研究会

2. 研究会テーマ

情報システム構築の超上流工程で重要な座を占める要求分析プロセスに対し、科学的アプローチによる新たな手法の可能性を探究するとともに、問題意識と研究の志を共有する若い情報システム学徒の育成を目指す。

3. 主査氏名、所属、連絡先

氏名 中西昌武

所属 名古屋経済大学 経営学部 教授 ph.D

連絡先 nakaniishi-m■nagoya-ku.ac.jp

(■を@に、全角文字を半角文字に置き換えてください。以下、同じ)

4. 幹事氏名、所属、連絡先

氏名 松平和也 (学会監事、ph.D)

所属 株式会社プライド

連絡先 mtdr■pji.co.jp

氏名 北村充晴 (会員、ph.D)

所属 株式会社プライド

連絡先 kitamura■naska.co.jp

氏名 小久保幹紀 (会員)

所属 株式会社システムフロンティア

連絡先 Mikinori.Kokubo■sfrontier.co.jp

5. 研究会テーマ設置の趣旨

システム構築プロジェクトの要求分析プロセスは、これまで、さしたる理論的恩恵が与えられないまま今日に至っている。ノウハウは多いが理論の裏づけに乏しく経験やスキルに多くを頼む技芸の域を出ていない。だが、物理学の理論が人々を安心安全

に鉄道や航空機で運ぶことを保証したと似た意義で、要求分析のプロセスにも理論的ベースを与える余地があるのではないか。申請者が第10回情報システム学会全国大会でBP賞を受賞した論文「パス歩行行列を媒介した帳票検討プロセス」は、そのような動機で提案したものであり、そこでは数理科学的アプローチを適用していた。

要求分析プロセスは、論理的整合性と情緒的不合理性と打算的利害性が錯綜する工程であり、理論的整備という面では今なお未踏の地である。複雑で多様な活動局面を抱えており、手法ひとつで鮮やかに問題解決できる領域では決してないが、個々の断面に対しては数理科学の恩恵が期待できる余地がある。当研究会では、申請者が提案したアプローチを切り込み口として、ささやかな挑戦を試みたい。また他の科学的アプローチとの接点や接合可能性も合わせて探りたい。

数理科学を応用した要求分析の切り口からは、沢山の派生的研究が可能であり、ぜひその夢を若い世代の方々と分かち合っていきたい。この研究会活動を通して若い世代の研究者が育つ機会ともしたいと願っている。対象領域は豊かであり、若手育成を目指す息の長い研究会としたい。

6. 主たる活動場所

株式会社プライドの施設をお借りする予定である。

7. 活動計画

活動は以下の内容とし、必要に応じて外部講師を頼むことも視野に入れる。

- ① 情報要求プロセスが長年抱えている技術的課題について議論する。
- ② 最近提案されている手法などについて、理論的観点から批判的に検討する。
- ③ 情報要求プロセスへの科学的アプローチに、どのようなものがあるか議論する。
- ④ 申請者が提案する「パス歩行行列による帳票検討プロセス」の可能性を議論する。
(試作された支援ソフトウェアを確認しての議論も含む。)
- ⑤ 以上を踏まえ、要求分析プロセスへの科学的アプローチの確立方法を議論する。
- ⑥ 研究活動の成果を、毎回、大会で発表する。